

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん(1号店)		
所在地	岐阜県羽島市上中町708-1		
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の施設は清潔感があり、笑顔の溢れる、アットホームな施設です。コミュニケーション能力が高く、利用者、職員の信頼関係も良好で、皆が生き生きとしています。毎月季節に応じた行事を開催している為、季節を感じると共に、利用者同士の交流もさらに深める事が出来ます。施設内も季節事に飾りをかえ、その作品も利用者と職員一緒に作成したものを展示しています。利用者個々の出来る事を伸ばす為、毎日の役割を決めて達成感を味わって頂き、自信にも繋げています。職員皆が誇りを持って働いており、利用者に感謝、そして職員同士素直に感謝を伝え合える「ありがとう」でいっぱい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔」と「ありがとう」が溢れ、利用者一人ひとりの希望を叶える個別ケアを実践している。コロナ禍で外部との交流が制限あるなかで、ハロウィンパーティの仮装、夕食パーティ、カラオケ喫茶や花見喫茶等で雰囲気を変えて、行事やレクリエーションを工夫し楽しみが増える支援をしている。メイク・ネイル・マッサージ等の介護エステの導入、猫のアニマルセラピー、お地蔵さんプロジェクト等に取り組んでいる。野菜や花作り、掃除、裁縫、洗濯物干しや畳み、猫や金魚の餌やり、炊事の手伝い等で日々の暮らしのなかで、利用者一人ひとりが活躍できる場とし身体機能の維持にも繋げている。県と大学及び近隣の農業用施設の協力を得て、一時避難所までの避難ルートの確認、誘導訓練をTV放映され、水害時の平屋建て事業所の安全体制に備えている。抗原検査を週2回実施し感染症予防に努めている。働きやすい職場として岐阜県介護人材育成事業者グレード2の認定を受け、笑顔の暮らしを支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共に「スタッフ行動規範10か条」を朝礼時に唱和し全職員に周知出来るようにしています。職員、利用者、わおんに関わる全ての人の幸せの為に行動し、理念に基づいた支援の実践に努めている。	毎日の朝礼で理念と共に行動規範を唱和し、常に意識して実践できるように名札に行動指針として所持している。理念を基に各委員会及び職員個々が、毎年、目標を設定し話し合いながら振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にある為、地域行事への参加は自粛しているが、感染予防を徹底し、周辺の散策や朝市に出掛け、その際野菜や花等を近隣住民の好意でいただくことが多い。	ほぼ毎日事業所周辺の散歩をし、住民と挨拶を交わしたり、会話したりして野菜等を頂き、良好な関係を築いている。地域の朝市では、住民手作りの手芸品、野菜や果物等を購入している。ふれあいサロンや地区文化祭への参加は中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「わおん爆笑劇団」を創設し社長自ら演者となり公演している。依頼があれば羽島市に関わらず公演し認知症の布教活動に努めている。現在はコロナ禍であり自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ感染予防対策として中止している。現在は、事業所新聞、手紙を運営推進会議委員に届け、近況報告等をしている。	メンバーに事業所のたよりや新聞を手渡し、行事や現状を報告している。コロナ禍にて感染症予防への配慮から、令和2年3月以降、運営推進会議を中止とし開催できていない。	メンバーを一同に会しての会議を回避した場合は、書面会議とすることも考慮し、サービス向上に活かす意見を伺う機会の検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは、日頃から事業所活動や空室状況について報告したり、電話やメールで情報交換を行っている。職員は市主催のzoomによる研修会に参加している。	書類提出時や管理者が市の男女雇用関連の委員に就任しており、折に触れ担当者に実情を伝え情報を得ている。市のモデル的事业所として相談を受ける時もある。マスクの支給、光熱費の助成金申請をしている。介護相談員の訪問は再開している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のヘルパー会議にて身体拘束についての話し合いを行っている。転落の危険回避の為、家族の承諾を得た上で4点柵を使用していますが、毎月開催の安全衛生委員会、家族、医療従事者と検討を重ね、見直しを含めて支援に取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を定め、安全衛生委員会を毎月開催し、ユニット毎の会議で職員に周知している。自己評価チェック表で、言葉遣いも含めて毎月振り返りをしている。身体拘束について、話し合いや検討を重ね記録もしているが、研修が実施できていない。	介護技術委員会が主体で様々な研修を実施しているが、身体拘束適正化に向けて更なる理解が深まるように、年2回以上の研修が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護技術委員会主催の社内研修の中で高齢者虐待についての知識を得ている。毎月のヘルパー会議にて議題にあげ虐待防止に努めている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業、成年後見制度を利用している方はいませんが、ヘルパー会議での勉強会を通し知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は一つ一つの項目において丁寧な説明を心掛けている。ご利用者、ご家族等の不安、疑問において傾聴し、理解、納得を図ってから契約等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ご家族宛にホーム便り、個別の写真入りの手紙(普段の様子を描いている)を送付している。電話やメール、面会時にてご家族に意見を聴き支援に反映している。	窓を開け人数と時間制限し居室での面会時、電話やメールで意見や要望を聞いている。毎月事業所のたよりや新聞には、日頃の写真を多く掲載し、個別の近況を記した手紙を添えて、時には動画を送信し意見を聞きやすくしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヘルパー会議や各委員会にて職員の意見交換や提案を行っている。それをリーダー会議にて、管理者、代表者に伝え改善に役立っている。	毎月のヘルパー会議や委員会から意見や提案は出ているが、業務内でも意見が言いやすい雰囲気がある。洗濯機や炊飯器の買い換え、扉の開閉不具合の修繕、レクリエーションでの昇降台購入、お地藏さん作成等の意見があり反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度の導入により画一的な給料設定ではなく個々の努力等も勘案している。また、社長との面談により職場環境、条件について話し合う場が設けられ、向上心を持って働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理制度を導入し、実現可能な目標を自ら設定し、日々の業務にやりがいを持ってるようにしている。目標を管理者、リーダーと共有し実現に向けてサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍にある為、交流を自粛しているが、介護感動事例発表委員会では他事業所と協同してサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴する姿勢を大切にしている。困り事、不安な事、要望等は雑談の中からも抽出出来るようにし、ご本人の安心を確保出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、一緒に解決する姿勢を大切に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の不安や困り事から必要なサービスを提案し、支援出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯等、日常生活の様々なことを一緒に行っている。ご本人は人生の先輩であり、教えて頂くことも多く、尊敬の念をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってご家族はかけがえのない存在であることを痛切に感じている。感染対策を十分に行い、面会等を行い「絆」を大切に支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にある為、面会制限しているが、ビデオ通話を活用しご家族との交流支援を行っている。馴染みの場所にドライブに出掛け関係継続の支援も行っている。	家族や友人の訪問時は、落ち着いて会話できる居室での面会にしている。電話の取り次ぎ、絵手紙や年賀状の宛名確認や代筆、投函等の支援をしている。文化センターや図書館、ピアノコンサートに同行する等で馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は全員がホールで過ごしており、ご利用者が自然に集う場となっている。レクリエーションや共同作業を通じて、ご利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからもご家族と、電話やお手紙のやりとりをして関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前、入所時の面談から、また日常の雑談からご本人の暮らし方の希望、意向を把握している。困難な場合は、ご家族からの聞き取りやご本人表情、動作も大切に把握に努めている。	日常会話、何気ないつづやき、家族からの情報等を詳細に記録し、どんな生活がしたいのかを把握している。夜間、居室や入浴時等に、個々にゆっくりと聞いている。困難な人には、顔の表情や仕草等から推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の引き継ぎの際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人介護記録、介護支援経過、業務記録、申し送り記録を活用し、職員全員が情報共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、ご本人、ご家族等の意見を反映している。毎月のヘルパー会議時に介護計画について話し合う事で、職員全員の意見も反映し、現状に即した介護計画を作成している。	医師や看護師の意見も参考に、本人及び電話やズーム電話にて家族の要望を聞き、介護計画を作成している。毎月担当者とケアマネージャーがモニタリングし、半年ごとに更新しているが、必要時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護支援経過にて個別の記録をしている。申し送り時にケアについて話し合い、職員間で情報共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在コロナ禍にある為、制限はありますが、それぞれの状況や希望に出来る限り対応している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントした上でその方に必要な社会資源の把握に努め、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけ医がいる方は継続して主治医として選択してみえ、状況を医師が把握してみえる為情報共有が出来ている。定期的に医師や訪問看護師の往診があり適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医は、訪問診療に切り替え継続している。他科受診で職員が同行する場合もあるが、家族が同行時は日頃の様子を書面にて手渡し、受診後に報告を受けている。希望で歯科の訪問診療や訪問看護師によるリハビリの利用もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には日常の様子を細やかに伝達し相談している。訪問看護師は月二回訪問があり健康相談をし、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟との情報共有を積極的に行っている。必要であればカンファレンス、共同指導も開催し早期に退院出来るように努めている。衣類等を届ける際には、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期の対応について事業所の方針を説明し同意を得ている。状態が変化した場合、今後の意向について話し合いを重ね、医療行為が必要な場合、ご利用者、ご家族が不安のないよう病院移行の支援も行っている。	入居時に事業所の方針を説明している。状態に合わせてケアマネジャーが家族に説明し、意向の確認をしている。医師からの説明もあり、「大切な人との別れの準備」の冊子を渡し、職員に看取り研修を行い看取りプランにて対応している。神社詣り、自宅への帰省、飲食の希望等、最期まで家族と共に本人の願いを叶える支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し備えてはいるが、全ての職員が応急手当、初期対応の訓練を毎年開催しもっと実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在コロナ禍にある為、消防署の立ち合いがありませんが、自主的に火災、地震、夜間設定も含めた避難訓練を行っている。運営推進会議委員、近くの製作所に緊急時協力をお願いをしている。	火災、地震や水害等を想定した日中の避難訓練を毎月実施し、消火器や通報機器の確認と話し合いをしている。水、米やオムツ等を備蓄している。県と大学との助言や指導を得て、近隣の農業用施設を一時避難所として避難ルートの確認をしているが、夜間想定訓練や住民の参加が得られていない。	少人数で行う夜間想定訓練を、年に1度は実施されたい。コロナが終息時は住民の協力が得られる働きかけが望まれる。

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した言葉掛けやケアの実践に努めている。ご家族からの聞き取りや生活歴を知ることで尊敬の念を持って会話している。	人生の先輩として大切な人としての気持ちで接し、言葉遣いは特に注意している。一人ひとりのペースを尊重し、生活歴や価値観にも配慮している。出退勤時は利用者個々に必ず挨拶をし、その人に合わせた声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話しやすい関係を築き、思いや希望を言いやすいよう環境作りをしている。自己決定の難しい利用者にはこちらから提案したり、選択制にするなど、自己決定する場を設け自分の思いをつたえられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、利用者の思いに添った支援が出来るよう心掛けている。一人ひとりのペースを大切に、したい事をお聞きし希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からの聞き取り等から「その人らしさ」が感じられる服装を心掛けている。散髪も職員が行い一人ひとりの雰囲気大切に髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを伺い、利用者も一緒に下ごしらえ、片づけの手伝いをしている。朝、昼、夕三食共にホームで調理し、職員も同じ食事を一緒に食べ会話を楽しみながら利用者の個々のペースで食事している。	希望のメニューを聞き、地場産や旬の食材を使用しユニット毎に調理している。テイクアウトの利用、テント張り外で食事、毎月季節の流しそうめんやおでん等の夕食パーティ、手作りおやつ等で楽しんでいる。下拵え、片づけ、食器や食卓拭き等のできる事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日記録している。食事、水分摂取量少ない利用者には別紙にて記録し、お茶が苦手な利用者にはお好きな物で摂取して頂き一日の水分量確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて見守り、仕上げ磨き、口腔介助をしている。歯科医との連携もとれており、分からない事を質問しケアの向上に努めている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ介助、オムツ交換をしている。介護技術委員会にて介助方法、オムツ、パット等の変更について話し合い、自立にむけた支援を行っている。	利用者個々に合わせてトイレ誘導や介助したり、毎朝便器に座ってもらう等で自立に向けた支援をしている。夜間ポータブルトイレや尿瓶使用する人もいるが、二人介助してトイレ排泄にしている。オムツから布パンツになった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材、乳製品などを取り入れ便秘にならないよう気を付けている。便秘日数を常に把握し便秘体操等をしている。便秘日数によっては便秘薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回あり、ご利用者の希望やタイミングに合わせて入浴している。ゆずを入れ季節感を感じて頂いたりし、入浴時楽しめるよう支援している。	希望のシャンプー、ボディソープ、入浴剤を使用し、順番や湯温に配慮している。状態に合わせてシャワー浴、足浴や清拭で対応し、一人で入浴したい人の希望に応じている。嫌がる人には声かけの工夫をしている。柚湯やミカン風呂にしたり、歌を歌ったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	バイタルチェック、顔色、表情は常に気を配っており、夜間不眠時は、昼寝を長めにしたりと、体調が優れない方は休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすり処方がされるとスタッフが確認し、管理している。個人ファイルに服薬情報が入っており職員はそれを見る事で目的、副作用などを知ることができる。服用時はスタッフが日付け、名前を確認後手渡しをし、飲み込みもしっかり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者には個々に合った役割を決め、食器拭き、床拭き、洗濯畳み、裁縫、作品作り等その方の生活歴、力を活かした支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は利用者の健康状態に合わせて、ご利用者自ら、他の利用者の車椅子を押し散歩をしている。普段行けない場所では事前計画、準備をしっかりとし外出支援をしている。	事業所周辺の散歩は車イスの人も一緒に出掛けている。ピアノコンサート、善光寺、図書館や文化センター、公園や道の駅等に混雑しない時間帯を考慮し、利用者の希望に合わせて外出している。日向ぼっこ、洗濯物干し、花の水やり、畑の野菜作りや草取り、菊栽培等で屋外に出る機会をつくっている。	

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望ある方にはお金を所持して頂いている。現在はコロナ禍でもあり自粛しているが、チラシ広告を見て欲しい物があれば買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族と話ができるように仲介役になり支援している。手紙のやり取りはないが、年賀状はできる方には書いて頂きやり取り出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年二回の大掃除も含め共用スペースの整理整頓を心掛け、心地良い空間作りをしている。玄関やホールの壁等にはご利用者と作成した季節感ある壁飾りを展示している。	玄関やベランダに季節の花を飾ったり、置いたりしている。季節の壁画、置物や作品を飾っている。新聞や雑誌を読んだり、猫と戯れたりしている。空気清浄機、二酸化炭素測定機、加湿機設置し、常時換気又は30分毎に換気、随時の消毒等で感染症予防にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広く、自由にご自分の椅子を移動し気の合うご利用者同士お話をしている。無駄なものは極力置かず、押し車の方も自由に移動出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談し、家で使い慣れた物、思い出のある物等を置き、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	自宅で使い慣れたTV、ラジオ、鏡台、寝具等を持ち込み、家族写真、遺影、アルバムや自分の作品等を飾っている。パイプハンガーに洋服を掛け、着たい服を選んだり、野球好きの人はタオル、ペナントや応援グッズを飾り自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉の上には本人の名前が貼ってあり、自分の部屋だと認識出来るようにしてある。また、トイレ、風呂場も分かるように壁に表示してあり迷わず行けるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社 ワオン		
事業所名	グループホームわおん(2号店)		
所在地	岐阜県羽島市上中町中705-3		
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2170400515-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち施設では、笑顔溢れるアットホームな施設です。コミュニケーション能力が高く、利用者、職員の信頼関係も良好で、利用者様が生き生きとしています。毎月季節に応じた行事を開催して、季節感を感じられる様にしています。施設内の飾りもシーズン毎に作成・交換をして、季節を感じられるようにしています。作品も利用者様とスタッフで共同で作成したものを展示して利用者様に達成感を味わって頂いています。個別ケアにも力を入れています。ピアノコンサートへ行ったり、利用者様が行きたい善光寺や外出を行い喜ばれています。職員皆が誇りを持って働いており職員同士に素直に感謝して、ありがとうの溢れる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範が、書かれているクレドをほぼ全員のスタッフが持っている。朝礼時に読む事で理念と規範を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和4年10月から徐々に感染者数の様子を見ながら緩和している。事業所同士の交流から再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、コロナ禍で開催できていない。感染者の傾向を見て、感動事例発表会などを地域と交流を再開していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍で開催できていない。事業所の新聞などは、配布して活動報告のみしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は、コロナ禍で開催できていない。介護相談員の方は訪問して頂いたりZoomで取り組みを伝えており、利用者様との会話をしてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。ケアを実践するために、社内研修やヘルパー会議で話し合いをしている。施設の玄関は、施錠しない様にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議や社内研修で、取り上げて確認している。利用者様に対しての言葉遣いも気を付けている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度の対象者は見えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、丁寧な説明を心掛けており、利用者様やご家族様の不安や疑問にも傾聴して安心していただける様に理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の要望やスタッフの想いや気づきをヘルパー会議で話し合い、各委員会で検討したりヘルパー会議で話し合い、管理者に報告して運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回リーダー会議を開催して、事業計画の報告、意見交換をしている。各事業所の意見交換もしている。会議の内容は、ヘルパー会議にも報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが、意見が言いやすい環境に心がけている。個々の個性を活かせる環境にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、委員会を作成し研修をしている。新人スタッフが、働きやすい環境にして指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、現在は他の事業者と交流会ができていない。コロナが、治まり次第開催を検討中。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を大切にしている。その中から、困っている事や要望をお聞きして信頼関係を築いている。会話が難しい方は、ご家族様に入ってもらったり、触れ合うことで、信頼関係を構築できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様は、今までの介護で不安を抱えている。会話の中からご家族様の思いをお聞きして要望を受け止めている。入所時は、特に小まめに連絡を行い、安心して頂ける関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、スタッフとの面談場所を設け、要望やサービスをお聞きする中で、必要とされるサービスを見極め、支援を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人は人生の先輩であり、教えていただくことが多い。尊敬の念を持ち、助け合いながら支援させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人は、ご家族様の心の支えにしている。本人と家族の絆を大切に、家族様にしかできない役割や協力を得ながら、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで馴染みの場所に行ったり、ご家族様や知人の訪問時には、ゆっくりできる場所を設けている。現在は、コロナ面会制限を緩和しているので実施できている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、認知度、病気を理解した上で、双方のコミュニケーションがうまくいくように手助けしたり、外出やレクリエーションを通して、利用者様同士が支え合える様な関係を築けるように支援している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他界後も、ご家族様との関係が続くことがあり、入院後も相談を受ける事がある。必要に応じて、いつでも相談、支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いや要望を把握している。会話が困難の方は、ご家族様から生活歴や趣味を伺い表情やしぐさから感じ取っている。会話やプライバシーに配慮し、時間や場所に配慮などもしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様にお聞きしたり、ご家族様には専用の用紙に記入していただいている。以前利用していたサービス事業所からも状況をお聞きして生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態は毎日の介護記録や申し送りでも共有している。有する力等の状態の把握は、ヘルパー会議で話し合い、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様と家族様に希望をお聞きしている。3ヶ月毎に担当者がモニタリングを行い、意見やアイデアをスタッフで話し合い、課題やケアのあり方について主治医、関係職種の方からもお聞きし、ケアマネが現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきは個別記録に記入している。ヘルパー会議で利用者様の希望、状態の変化、介護の仕方を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の希望を叶えられる様に取り組んでいる。誕生日にお友達に会う計画をしたり、ご家族を交えて外出したり、菊づくりや図書館に行ったり、個別ケアを重視している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時にはご近所の方から花や野菜を頂いたり、絵を描かれる方には図書館を利用したり、文化センターに行っている。遠方のご家族の方とはビデオ通話を行っており豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様が望むかかりつけ医に診て頂いている。信頼関係が出来ており、入所前の情報を把握しているので、本人も安心感があり、施設ともスムーズな情報共有や連携が築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事や異変があった時、主治医や事業所内の看護師に相談、対応できている。訪問看護も月2回の往診や24時間の電話対応ができ、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人との面会を小まめに行い、担当医や看護師と面談し状況把握に努めている。退院時は、カンファレンスに参加して、かかりつけ医との連携をとっている。病院主体の研修会に参加していたが、今は、コロナ禍でできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りができる事をお伝えしている。また、本人の心身の変化に合わせて、事業所のできる事をお伝えしている。本人やご家族様の希望を尊重して終末期のあり方を話し合っている。看取り研修を行い、チームケアの再認識ができています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全衛生委員会の看護師から研修を受けている。緊急時対応マニュアルが置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で、現在は消防署の方をお呼びして避難訓練は、できていないが、業務改善委員会主催で避難訓練を毎月したり、災害備蓄の点検をしている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重し尊敬しており、言葉遣いに気を付けている。また、誇りやプライバシーに配慮した声掛けをしている。申し送り時に社内規範を読み上げて、一人一人が意識を持てるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との関係作りを良好に築き、話しやすい環境を作っている。担当者会議や夜間、浴室と個室で対応できる場所も活用している。自己決定が難しい方には、選択制にしたり表情から希望を読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に思っており、利用者様からの発信や希望を耳を傾け、その人らしい生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人とヘアスタイルを決めてスタッフが毛染めやカットをしている。居室に鏡を置き服のコーディネートやお化粧をさせてもらっている。マニキュアを付けたり、エステを受けていただきおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望をお聞きして、普段の食事に活かしたり、夕食パーティーを開いて食の楽しみ作りを提供している。野菜作りや下ごしらえ、後片付けまで本人のできる力を活かしながら一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は、毎日記録している。嚥下状態に合わせてトロミをつけている。お茶が苦手な方には、好きな物を提供し水分量が確保できる様に支援している。夜間は居室にお茶を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて見守りや仕上げ磨きをしたり、口腔状態に合わせて歯ブラシやスポンジ、ウエットティなどを使い分けている。介護技術委員会主催で各務歯科にお聞きしてスタッフに周知している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けをしたり、尿意のある方には、教えてもらい介助をしている。手すりをうまく活用して、本人の力を借りて介助している。本人の希望を聴きながら夜間は、ポータブルトイレや尿瓶を提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になると、普段とは違う表情や行動が現れる為、乳製品や果物の摂取、マッサージ、運動、散歩を心がけ主治医との連携で薬の調節をして、自然に排泄できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本週に3回と決まっているが、本人が「入りたい」と希望があれば、入れる環境にしている。本人の要望重視している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化、外出や入浴の後は状況に応じて休憩して頂いたり、夜間は安眠できるように温度調節、会話の傾聴、マッサージをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の希望、ご家族、主治医と相談して必要最低限の薬を提供している。スタッフは、副作用を理解しており、初めての服用に関しては様子の確認をしている。誤薬に注意し、ダブルチェック、服薬確認の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、調理の下ごしらえ、裁縫、箱作り、マッサージ、作品づくり、絵手紙と生活歴から一人一人の得意とされるものを見つけて、喜びのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望の場所やご家族様と一緒にピクニック等にお出掛けをしていたが、今は、コロナ禍で人の少ない場所に外出している。わおん周辺の散歩などは、ほぼ毎日実施している。近所の方々とも会話などもしている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布は職員が管理している。コロナ前は一緒に買い物に行っていたが、現在はスタッフのみ買い物にしている。状況を見て再開していく予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話したり、遠方に見えるご家族様とビデオ通話で顔を見て会話できる環境を作っている。絵手紙でのやり取りやご家族様に手紙を書いてもらい、会えなくても安心できる支援をしてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食後は本人と楽しく掃除をしている。ベランダには、季節の花があり、壁には手作りの作品、玄関には利用者の作品を飾り、来所者に1番に見てもらっている。今は、猫がいるので、セラピー猫として利用者様の癒しになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの前にテーブルを置き、団らんができる工夫をしている。ベランダ前に畳を置き日向ぼっこや庭を見てくつろげる場所を作っている。利用者様が集中して作業ができる空間も用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染の物やプレゼント、ご家族様の写真や本人の作品を飾り、心地よく生活できる空間作りをしている。体調に合わせて、ベッドの位置を移動して、移乗や見守りができるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の必要な所に手すりを設置したり、活用方法を伝えている。また、ポータブルトイレも日中と夜間と配置の場所を変えて、自立して生活できる様に工夫している。		